

小松崎 愛 さん

(私立遺愛女子高等学校 2年)

★養成塾に参加して、最も印象に残ったことは何ですか？

私がリーダー塾に参加して、最も印象に残った事はアジアハイスクールサミットの議論です。この議論は、高校生を主体として行われました。担任の先生や学生リーダーはほとんど私たちに口を出す事はせず見守ってくれました。そんな中で高校生の中で司会や議事録係の役割分担をして話し合いました。私たちのクラスは差別と言うテーマについて発表することになりました。しかし差別といっても、何が差別なのか。誰が困っているのか。また私たちに何ができるのか。このような点についてなかなか意見がまとまらず議論は白熱しました。しかしこの熱い討論が最高の結果をもたらしてくれたと思います。みんなで意見をぶつけ合いみんなで完成させた発表でした。

★最も感銘を受けた講義について教えてください。

私が感銘を受けた講義は、葦津先生の講義です。先生は宗像大社の宮司であり、また環境問題についての第一人者でもあります。先生のお話はただ環境問題について理想論や課題を上げるだけではなく、神道に通ずる日本人の倫理観や価値観に基づいた問題解決の方法を教えてくださいました。この、環境問題と心の問題をつなげるといった考え方は私にとって全く新しいものでした。自然豊かな北海道に住む私にとって環境問題は見過ごすことができない課題でした。しかし今回の先生のお話を聞いて私も環境問題について深く考えてみようと思うようになりました。

★アジア各国や全国からの参加者との交流を通して、得たことや感じたことは何ですか？

まず私が感じた事は自分の語学力の拙さです。学校では英語のボランティアやフォーラムに参加し、自分でも英語の実力はあると考えていました。しかしいざアジアの学生の前で自分の意見を話そうとすると、習ったはずの単語や言いたい熟語がなかなか頭から出てきませんでした。本当の意味での使える英語を習得するためにさらに勉強しなくてはと思わされる経験でした。また私は世界の高校生たちのレベルは何と高いんだと思い知りました。とても博識で私の知らないようなことをしっかりと理解して話していました。まだまだ自分は実力不足でこれから日本、また世界を相手に働こうとしている私にとって、自分の実力を知れた事はとても良かったです。

★養成塾で得た知識や経験を、今後どのように活かしていきますか？

私はリーダーとは何かという問いに答えるためにこのリーダー塾に参加しました。ここで得た知識や経験は確実に私の武器となっています。私はリーダー塾に参加した後、学校の生徒会選挙で生徒会長に立候補しました。ただリーダーをやるためではなくリーダーとしてみんなを支えていくために何ができるかという問いを考え続けて私の経験を活かしていこうと思います。

★養成塾での講義や、アジア各国、全国からの参加者と交流した中で、あなたが感じた北海道の魅力や価値を教えてください。

オンラインで全体として話す機会があり、その際に文化同士の共生や後世にどう文化を残すのかという話題になりました。その時に話題に出たのがアイヌ民族の事です。アイヌ民族は日本でも珍しい先住民族です。しかし当時に比べその文化や言葉が廃れていっている事は事実です。私はこの時、民族共生象徴空間ウポポイのことを思い出しました。私たちは郷土史やアイヌ民族の授業で、他民族と共生するための多様性の大切さを小学生の頃から教わってきました。またこのような施設でアイヌ民族の意識が高まっていることも事実です。この時に私は北海道民として素晴らしい教育を受けてきたと道民である価値を見出せました。

★北海道では、少子高齢化や人口減少、現在は新型コロナウイルス感染症等、様々な課題に直面しています。北海道が抱える課題を一つ挙げ、あなたが北海道のリーダーとなった場合、どのように解決していくか教えてください。

アジアハイスクールサミットでは地方の過疎化や人口減少によって廃れていく日本についての問題が多く上がりました。全国の中でも飛び抜けて土地面積が大きい北海道はこの問題はさらに深刻化していくと思います。しかし東京オリンピックでのアイヌ民族の踊りや新しい移住先としての北海道の魅力は年々高まっていると言う事実もあります。私がもし北海道のリーダーになったら、このような北海道外からの魅力を見つけ、観光や移住と言う観点から北海道を発展させていきたいです。これだけ広い北海道にはまだ私たちが知らない魅力がたくさん詰まっていると感じます。また北海道に住んでいるからこそ気付けない魅力もあります。第三者として地元を見つめその長所を伸ばして北海道を活性化させていきたいです。

★養成塾に参加したことでできた、将来の夢や今後の目標を教えてください。

私の将来の夢は、まだはっきりと決まったわけではありません。しかし今回のリーダー塾で自分に足りないものを見つけることができました。私は将来北海道、または日本から出て新しい北海道と日本の魅力を探したいと考えています。そして海外や北海道外で経験を積み、そこから学んだことを地元に戻ってきてから実行したいです。

★保護者の方から

全国の高校生と交流することができ、大変勉強になりました。将来の夢に向け、具体的に考えるきっかけとなったようです。後半は自宅でリモートだったのが残念だったようです。

★学校の先生から（私立遺愛女子高等学校 向井 秀明 先生）

一番感じた点は、生徒が自分を見つめ直すきっかけになったことです。休み明けの面談で「自分の将来についてもう一度考え直してみたい」と言ってきました。意識の高い他校の生徒から良い刺激を受けて「本当にこれで良いのか？」「自分にもっとできることはないか？」と考えるようになりました。これからの成長がますます楽しみになりました。

高間 結菜 さん

(私立遺愛女子高等学校 2年)

★養成塾に参加して、最も印象に残ったことは何ですか？

私が最も印象に残ったことは、全国の高校生が議論するアジアハイスクールサミットです。理由は、アジアハイスクールサミットを通して、世界で起こっている問題を再認識しました。また、全国から集まっているからこそ沖縄の基地問題について直接聞き、現地の本当の声を聞くことができ、私の知らないような知識を持った人々の話を聞くことでより沢山の問題に興味関心を抱くようになりました。その問題について、奇想天外な解決策を生み出すという課題通り、それぞれの個性や発想力が炸裂し、とても興味深かったです。全員で問題の解決策に対して真剣に考え、発言していて誰も他人の意見を否定しないので発言しやすい環境も議論の活性化につながりよかったです。

★最も感銘を受けた講義について教えてください。

最も感銘を受けた講義は、田口一成先生の講義です。社会問題をビジネスで解決するソーシャルビジネスという言葉は初めて聞きました。ボランティアも大事だとは思いますが、ボランティアだけでは限られてくることがあり、最終的に問題の根本的な解決にはならないので、企業から率先して問題解決に取り組むという考え方に感銘を受けました。企業とは大きいので、環境問題などを起こせば個人に多大な被害をもたらしますが、社会問題を解決しようとするれば個人より手厚い支援、早期解決ができます。会社自体の構造も従来型でなく、リーダーを事業のチームごとに変え、特性を生かしそれぞれにあった活躍の場を与えるという、これからの社会のために会社のリーダーとして、適材適所を実現させられるこだわりや情熱を感じました。

★アジア各国や全国からの参加者との交流を通して、得たことや感じたことは何ですか？

アジア各国や全国からの参加者との交流を通して私は、高校生でも自分のやろうというやる気とそれを言語化し、行動すれば何でもできるのだと感じました。今まで大人になったら何かに貢献したいなど、勝手に限界を決めていましたが、今行動に移せないものは大人になってもできないのだと気づきました。すでに学生団体を運営していて、都道府県の学生団体に参加している人の声を聞いて実際に高校生でも様々なことができるのだと可能性や希望を持って行動していかなければいけないのだと感じました。また、自分のやりたいことを言語化できている、しっかりと主張できている高校生を見てもっと勉強しなければいけないと思いました。

★養成塾で得た知識や経験を、今後どのように活かしていきますか？

私は、今回のリーダー塾を通してすべての物事を客観的に見て、それに対しての自分の意見を主張し、欠点やその解決方法を考えるという意識の高さを学びました。SDGsについて触れた経験を生かし、今後自分の生活や行動が環境や生物、人々にどのように影響しているのかを考え、できるだけ「win-winな関係」をどう実現できるかを学校などで話し合い、生かしたいです。また、全国の高校生との交流で気づいた北海道、特に函館の魅力などを外国人観光客に向けて英語で伝えたいです。観光プランを考え地元の高中生と交

流し、新しい魅力を作っていくという活動も地域交流の一環としてコロナ禍ではありますが、学校内でも意見交流などできることをやっていきたいと考えています。

★養成塾での講義や、アジア各国、全国からの参加者と交流した中で、あなたが感じた北海道の魅力や価値を教えてください。

私は、全国の高校生と交流し北海道の食、海鮮物や野菜、牛乳などのおいしさや新鮮さ、自然の豊かさだと感じました。海鮮物は、朝市などで生の新鮮なものを食べられることなどです。海と山が一緒に風景として見えることも当たり前だと思っていましたが、海と山の風景を見た高校生がどちらも一緒に見られることに驚いていたのを見て北海道の自然豊かさは珍しく魅力なのだと気づきました。また、函館に関しては函館山から見える夜景や五稜郭などの歴史の深さ、公会堂などの街の歴史が感じられる建造物は函館独自の素敵な魅力だなと感じました。北海道の魅力として共通して言えることは、人工で作ったものでなく、北海道の土地や気候を生かした食や自然、歴史の深さにあると感じました。

★北海道では、少子高齢化や人口減少、現在は新型コロナウイルス感染症等、様々な課題に直面しています。北海道が抱える課題を一つ挙げ、あなたが北海道のリーダーとなった場合、どのように解決していくか教えてください。

私が考える北海道の課題は、少子高齢化です。高齢化も深刻化していますが、私が焦点を当てるのは、優秀な若者の都市への流出です。若者が流出してしまう原因は、大学や高校、雇用の少なさにあります。そのため、私は、地方の大学の学部を増やし、全国の学生交流など子どもに沢山のひととの交流ができる機会を設けます。理由は、学部を増やすことで大学在学中にさらに北海道の魅力を知ることができ、卒業生が就職、起業することで道内の経済活動を活性化させることができるからです。海外（親交のある国）との大学と提携し、留学制度や高校大学生を対象としたサマーウィンターワークショップの制度を整えることで優秀な人材を育てることもでき、活動が活発になり子育てをする上で地域教育の魅力が増すような制度作りに取り組みます。

★養成塾に参加したことでできた、将来の夢や今後の目標を教えてください。

私は、このリーダー塾に参加して自ら考え行動し、自分の言葉で人を引きつけられる能力が必要だと感じました。人との縁を大切にし、周りに感謝することは無論、考えをしっかりと持ち、主張し周りに共感してもらえるような対人能力を高めることが目標です。そのため、本を沢山読むことで今、必要な知識を身につけ、社会に出たときにその知識を活用できるようにすることです。また、高校生の間から沢山の経験値を積み、行動力を高められるよう努力していきたいです。将来の夢は、自分の長所を生かし、人や社会に奉仕する仕事に就き、人間だけでなく、今後の地球や環境に何かできる仕事に就きたいと考えています。地球温暖化や異常気象がこれ以上深刻化しないような対策を考え、実施していく企業に務め、問題解決に取り組みたいです。

★保護者の方から

前半福岡でのプログラムを体験し、後半は北海道に戻ってきてのリモートでの参加となり、最後まで参加しなかったようでした。貴重な講義や全国の同世代の仲間と出会い、交流し合えたことはこれからの人生において、大きな財産になったようです。未来に起こりうる困難を解決するために必要な「主体性」「発想力」「コミュニケーション能力」に今後磨きをかけてくれると信じています。

★学校の先生から（私立遺愛女子高等学校 向井 秀明 先生）

意識、考え方に大きく成長が見られた。特に進路面で「もう一度考えてみたい」と考えるようになった。「自分が〇〇になりたい」という考えから「自分が〇〇になって社会にどんな形で貢献できるか」という意識が高くなったと思う。更なる成長を期待します。

照井 結子 さん

(私立遺愛女子高等学校 3年)

★養成塾に参加して、最も印象に残ったことは何ですか？

仲間と一緒に 2 週間、真剣に日本の将来について考える時間が大いにあったこと。環境問題、社会問題など、多方面から日本の現状を見つめるようになり、将来の日本のために自分はどのような人間になれるのか、と自分に問いかける時間が増えていて、とても驚いた。それだけでなく、自分がどのような大人になりたいか、アウトプットする機会がとても多かったので、周りの塾生がどのようなビジョンを持っているのかを聞くことができ刺激をもらった。全国に、熱い志を持った仲間がたくさんいることを知って希望が持てた。さらに、講義をしてくださる先生方、運営に携わる方の熱い思いが伝わり、これからの世代を担う自分がその思いを受け継げるようになりたいと感じた。

★最も感銘を受けた講義について教えてください。

元国連事務次長であった明石康先生の講義が、とても印象に残った。新型コロナウイルスの出現によって、生活様式が大きく変化する時代となった今はいつ経済が傾くかわからない。それを踏まえて、持ちうる可能性を最大化することが必要であるという明石先生の主張は日本に対して警鐘を鳴らすものと思った。日本人は争うことを嫌う性質があるが、技術の発展には競争が不可欠なので、学生である私も競争心を持って学ぶことを忘れずにいようと思った。日本人留学生が減少しているのも、将来の日本に国際的な視野を持った人材が減ってしまう可能性があるので、促進できるように自分が留学して留学することのメリットなどを伝え、少しでも影響を与えたいと思う機会になった。

★アジア各国や全国からの参加者との交流を通して、得たことや感じたことは何ですか？

まだまだ自分は世界について知らないことが多いと感じた。海外からの参加生が自分の拙い英語を一生懸命聞こうとしてくれ、zoom での交流が終わった後も SNS を通して互いのことについて話しかけてくれ、これからも交流を続けたいという思いが生まれた。日本全国の塾生と交流して、住んでいる地域が違くと常識も違うものになっていることが対話を重ねて感じられた。この塾に参加する学生は世界で起こっている問題に対する関心が高く、話を聞くだけでもその人が行っている活動の意味について学ぶことができた。

★養成塾で得た知識や経験を、今後どのように活かしていきますか？

大学に進学したら、講義を通して生まれた自分の興味のある分野についてより教養を深めたい。リーダー塾では、自分の主張を正確に相手に伝えるためにはどうすれば良いか、身を持って学んだ。特に自分が解決したいと強く思う分野にフォーカスして、まずは一般の人にそのことを知ってもらえるようなプレゼンの

機会を作りたい。また、意見交換をすることの楽しさや、仲間と一緒に解決策を練る時間がとても充実していたので、ワークショップなどを開いてリーダー塾を擬似体験できるようにしたい。積極的に行動する姿勢を忘れずに、どんなことにもチャレンジしていきたい。

★養成塾での講義や、アジア各国、全国からの参加者と交流した中で、あなたが感じた北海道の魅力や価値を教えてください。

北海道出身であることを伝えると、ほぼ全員が北海道の食文化に興味を持ってくれた。北海道は農産物だけでなく海産物も豊富であるし、生産量も多い。自然が本来の状態そのまま保全されている地域がとても多く、動植物の多様性が維持されているということも感じられた。先住民族であるアイヌの歴史があることも、民族の多様性として守られているのではないかと感じた。さらに、札幌のような大都市もありながら、ニセコのような四季を通して自然を楽しむことができるのは北海道ならではの特色に思えて、誇らしくなった。

★北海道では、少子高齢化や人口減少、現在は新型コロナウイルス感染症等、様々な課題に直面しています。北海道が抱える課題を一つ挙げ、あなたが北海道のリーダーとなった場合、どのように解決していくか教えてください。

北海道は広大な土地を持っているのにも関わらず、人口が減少しており、若い人が都会へ出てしまうことで地域社会の衰退が起こっているのではないかと考える。私がもしリーダーになったら、コロナが収束した後に外国人留学生を大勢招き、国際交流に興味のある日本の学生も多く招いて、学生が運営する村を作りたい。そしてその村では北海道が直面する問題を解決することを村の事業の一環にして、学生たちが作りだすアイデアを北海道の市町村で導入する。こうすると、学生生活が終わった後もプロジェクトを遂行するために北海道に残ってくれる若い人が増えるかもしれない。さらに、若い人が集まることで新しい文化を発信しやすくなるし、新たに学生が集うプラットフォームとしての役割を北海道が担えるかもしれない。

★養成塾に参加したことでできた、将来の夢や今後の目標を教えてください。

鎌田寛先生や山本太郎先生の講義を聞いて、将来は直接自分の手で難民を助ける仕事がしたいと思った。なぜなら、今まではボランティア活動を通して間接的にアジアやアフリカの子供たちを支援してきたが、先生が現地で実践してきた取り組みを知って、自分も難民の人々と対面して、コミュニケーションを通して寄り添いたいと考えたからだ。また田口一成先生の講義では、社会で起きている問題をビジネスで解決するという新しい支援の形を学んだ。そのため、大学でビジネスについて学び、より効率的に難民を支援できる方法を生み出し、「cool head, warm heart」の精神を持って世界で貧困や紛争に巻き込まれて苦しんでいる人々を助けたい。また、大学在学中に留学をし、世界で起きていることを日本の外から捉えられるようにしたい。

★保護者の方から

参加前には不安や心配で緊張していましたが、帰郷してからは経験した事、楽しかったことなど、沢山話

してくれました。新しく得た知識や経験は今後の人生で役に立ち、広い視野で様々な事柄に興味を持つ事が出来るようになりました。

通常の授業では得られない経験であり、自己啓発だけではなく、将来について考えるきっかけになったと思います。

また、参加させていただいた事で全国あらゆるところに友達ができたようです。今まで以上に友達の輪が広がったことでこれから娘の人生がより豊かなものになっていくことを祈っています。

★学校の先生から（私立遺愛女子高等学校 清水 優作 先生）

高校2年生のときからリーダー養成塾に参加したがっていて、昨年度は開催されず、とても残念がっていた。ようやく本年度行けて、現地で全国の学生たちとプログラムを3日間終えた後、コロナの影響で帰省し、オンラインになってしまったと聞いたが、それでも満足気にいろいろと思い出話を私に話してくれた。オンラインになってしまったことを聞いた時にこの子の満足度は低いだろうなと思っていた私の考えはすぐに消えた。とても充実した顔で「参加できて良かったです。満足しています。」と言ったからだ。オンラインになっても、講義、ディスカッション、プレゼンなどを通して、現地で行うのと遜色ない、質の高い教育をしていただいたおかげだろう。オンラインでも自分は成長できたと感じているとのことだった。

リーダー養成塾のように全国から集まる向上心の高い同年代に出会い、良い刺激を受けるという経験は貴重だと思います。いつもの狭い世界から飛び出し、新しい環境に飛び込むという勇気、リーダー養成塾で得たたくさんの刺激は本生徒を成長させたことと思います。

古館 希和 さん

(私立遺愛女子高等学校 3年)

★養成塾に参加して、最も印象に残ったことは何ですか？

私が印象に残ったことは参加していた高校生たちがみんなすごかった事です。学年関係なく、積極的に発言していて、且つ大人顔負けの濃い内容を話していました。私は自分と同じように内向的な子もいると思っていました。私はクラスの中では1番発言数が少なかったと思います。ですが、クラスのみんなは自分の意見を持っていて、一生懸命ゴールに向かおうとしている姿が印象的でした。2週間ですぐにみんなのようになれるわけではありませんでしたが、私も自信をもって、発言できるようになりたいなと感じました。また、各地から来ているということもあり、その地方地方で文化や言葉がちがうことも印象的でした。知らなかったゲームや知らなかった方言を使ってみたり、地元にいるだけでは出来ないような体験ができたと思います。

★最も感銘を受けた講義について教えてください。

私が1番印象に残った講義はモハマド・マハティールさんの講義です。マハティールさんは一国の首相であったのでとても客観的にこの世界をみているなと感じる内容でした。マハティールさんは「私たちは世界市民である。このコロナ禍で国同士ではなく、対コロナとしてみんなが一丸とならなければいけない。」というようなことをおっしゃられていました。現在、内戦や国と国の戦争が世界各地で起きていますが、コロナの混乱の中争っている場合ではないし、自分は世界市民なんだという自覚を持って行動しなければならないのだと感じました。そのためにはまず、小さいことからでも世界の今を知り、自分はどう動けるのかを日々考え、世界を客観的に見るのが大切だなと思いました。

★アジア各国や全国からの参加者との交流を通して、得たことや感じたことは何ですか？

まず、アジアハイスクールサミットではオンラインでアジアの高校生たちと意見を交わしたのですが、それぞれ話す言語が違っていても英語や身振り手振りで言っていることが理解できたことに驚きました。また、それぞれの国のコロナ禍での悩みや不安が違ったということは新しい発見でした。全国の高校生たちとの交流は、私が今まで北海道をあまり出ていなかったので、不思議な感じでした。持ち寄った地域の問題はそれぞれバラバラで、でも東北地方の人達とは同じような問題で、、日本は日本でも抱えている問題がこんなにも違うのだなと実感しました。でも、共通していることは何とかしたいという思いだったのでより良い

未来を一緒に作っていききたいなと思いました。

★養成塾で得た知識や経験を、今後どのように活かしていきますか？

リーダー塾での私の組の担任の先生がおっしゃっていた言葉なのですが、「出る杭は打たれる、沈んだ杭は腐る、出過ぎる杭は磨かれる。だからあなた達は出過ぎる杭になりなさい」という言葉に感動しました。今まで出ることに怖がり、何も出来ないでいましたが、リーダー塾で経験したことをバネに難しいことではありますが、出過ぎる杭になってみようじゃないかと思いました。なので、これからどんな活動においても躊躇わず、自分で答えを探せるようになりたいと感じました。また、リーダー塾の後にどう動くのかが大切だと聞きました。ですから、黙って見ているのではなく、自分で動けるように学生団体に所属し、世界のためになにか良いことが出来たらいいなと考えています。出過ぎる杭になって磨かれた女性になろうと思いました。

★養成塾での講義や、アジア各国、全国からの参加者と交流した中で、あなたが感じた北海道の魅力や価値を教えてください。

私が感じた北海道の魅力はやはり、食物の豊富さと自然の豊かさだと思いました。担任の先生や同じクラスの子達も「北海道でスキーやったよ！」や、「海鮮丼食べたい！」など北海道の特産品や有名な観光地の名前を出しながら、印象を語ってくれました。道民として、とても誇らしく嬉しかったです。また、提供してもらったとうきびチョコや、私が持っていった北海道のお土産をみて、知ってる！おいしいよね！と反応してくれました。北海道には誇るべき食、文化、自然があるのはもちろん、私達もそれを感じることができ、他の所から来た人たちにも幸せとトキメキを与えられるようなところだと改めて感じました。私の地元では特に海産物が豊富に採れます。福岡で出会った人たちにも地元の物を食べて見てほしいと思いました！

★北海道では、少子高齢化や人口減少、現在は新型コロナウイルス感染症等、様々な課題に直面しています。北海道が抱える課題を一つ挙げ、あなたが北海道のリーダーとなった場合、どのように解決していくか教えてください。

私は少子高齢化に伴う人口減少が北海道の課題だと考えました。私の地元では昭和 35 年に 1 万人以上いた人口が今は5千人をきるほどまで、減ってしまいました。また、少子高齢化が進むにつれてより人口減少は加速しています。仕事が無ければ仕事がある所に集まるのは当然のことだと思います。特に地方は若者が働く場所が少なく、人口減少のスピードも早いです。私はこの若者の流出を防ぐために、北海道の自然の魅力や過ごしやすさ、活動のしやすさをアピールし、多くの事業者を誘致すれば北海道がより盛んになるのではないかと考えました。そのためにも起業しやすい環境を作り、成功する例が増えれば増えるほど、若者が働きたい仕事が増えていき、わざわざ他の都市まで行く必要がなくなるのではないかと考えました。

★養成塾に参加したことでできた、将来の夢や今後の目標を教えてください。

私は最後の目標宣言で「世界中の人々と友達になりたい。そのために異文化理解を深め、たくさんの言語を学びたい。」と宣言しました。リーダー塾では本当にたくさんの人々と交流しましたが、それと同時に、ここでこんなにも多種多様な生き方に出会えるのであれば、世界にはどんなにたくさんの生き方があるのだろうかと感じました。なので、私の知らない場所の知らない人々の文化や考えを知りたいと思いました。しかし、日本語だけできても会話は出来ません。だから、英語はもちろん他の国の言語や文化をもっともっと理解したいと思うようになりました。更に、将来の夢も海外の事に関われる、外交官のような職業に変わりました。簡単なことでは無いと思いますが、大学では学びを深めて、世界の役に立てるような人間になりたいと思っています。

★保護者の方から

ズームでの会議を近くで見ていると議題である困窮や差別について沢山の意見や課題が交差し私自身も議題の難しさと奥の深さを感しました。本人も普段いかに平穩だからこそ何も考えずに過ごして来たかを痛感した様でした。しかし、この会議での一員として参加できた事は有意義だったし、みんなで解決に向かえた事は娘にとってこれからの躍動になると思います。

★学校の先生から（私立遺愛女子高等学校 相川 宏泰 先生）

養成塾参加前も積極的で非常に前向きな生徒ではありましたが、参加させていただいたことにより、より一層成長したと思います。学校の外でしっかりとした活動が出来る力は高校三年時の進路選択の際にも大いに役に立っていると感じます。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

林 あかり さん

(学校法人札幌慈恵学園 札幌新陽高等学校 2年)

★養成塾に参加して、最も印象に残ったことは何ですか？

佐賀で1日間自粛生活をしたことが、とても印象深かった。起床して、その日の講義が全てキャンセルになったことを聞いて、今の状況も何も伝えられない中で1日を過ごした。不安や疑問、講義が聞けないショックなど様々な感情がある中で「じゃあ、何する？」と、今ある状況を最大限に活かして学びに行こうとする塾生の能動的な姿勢を見ることができた。悲観的にも捉えられる状況を、いかにしてプラスに捉えるべきなのか。そして、誰もが苛立ってもおかしくはない環境で、一言「ありがとう」を発信し、広めていくことの重要性を学んだ。そして、このコロナ禍中だったからこそ得られた経験を、現在の情勢に繋げるべきだと強く感じた。

★最も感銘を受けた講義について教えてください。

ボーダレス・ジャパンの代表取締役、田口一成さんの講義に最も感銘を受けた。ボーダレス・ジャパンとは、社会起業家たちのプラットフォームを展開する企業で、田口さんは講義の中で「社会起業家」の重要性について深くまで語った。「世界に社会起業家が増えれば、社会がもっと良くなっていく」という熱いビジョンを聞いて、とても感動した。私はリーダー養成塾に参加する以前から、自分の中にある目的や野望は明確にあった。しかし、それを達成するまでの手段が全く決まっていなかった。リーダー養成塾に参加し、田口さんの講義を聞いて「社会起業家」という言葉を知った。私自身の将来叶えたい野望に適していると感じ、社会起業家になることを視野に入れ始めるきっかけとなった講義だった。

★アジア各国や全国からの参加者との交流を通して、得たことや感じたことは何ですか？

リーダー養成塾初日に「2週間の目標」を発表する機会があった際に、自ら挙手して恐れなく大勢の前で発表していく高校生の姿を見て、強く圧倒された。「自分には何があるのか？」「自分はこれまで何をして来たのか？」と、自分が何者なのかわからなくなり、悩むことも多々あった。しかし、それは私だけではなかった。リーダー養成塾に参加しているとはいえ、周りには自分像が見えず悩む人も多くいた。「リーダー」という言葉はあれど、139人いたら139通りのリーダー像があり、答えは1つではないことを知った。あのリーダー養成塾でもこれほどまでに個人差があり、多様性も存在するならば、普段過ごしている環境ではさらに多様性を尊重すべきではないのか、と感じた。

★養成塾で得た知識や経験を、今後どのように活かしていきますか？

リーダー養成塾の環境は、普段私が過ごしている環境と大きく違う点が多くあった。リーダー養成塾では、私が何をせずとも議論が進んでいくことが当たり前だったが、現実はそのも上手くはいかない。全員が能動的かつ主体的な環境も、滅多にない。そのような状況の中で、人をどうやって巻き込んでいくか。私が直接手助けせずとも、自ら「チャレンジしたい」という気持ちを起こすために、どのようにアプローチすべきか考えるべきだと感じた。リーダー養成塾で出会った、立ち振る舞いや存在だけで人を奮わせられるような力を持つ人たちから学び吸収したことを、今ある環境で活かして周囲により良い影響を広げていきたい。

★養成塾での講義や、アジア各国、全国からの参加者と交流した中で、あなたが感じた北海道の魅力や価値を教えてください。

北海道の価値は、人にあると感じた。同じ北海道卒の塾生も、北海道からボランティアで参加している学生リーダーの方も、とても魅力的かつあたたかい人ばかりだった。話してみると丁寧に頷いてくれて、思わず「ほっ」とさせてくれるような人柄で、けれど議論の際には自らの主張を巧みな言葉選びで発信する人たちと出会うことができた。こんな素敵な魅力を持った人たちが北海道を牽引していくのかと思うと、わくわくしてたまらなかった。リーダー養成塾以外にも、北海道に熱い愛を注ぎ、まちづくりや人と人を繋げるプラットフォームを展開する素敵な大人たちがたくさんいることを知っている。だからこそ、リーダー養成塾を通して出会った人たちも含めて、北海道の人に果てしない魅力と可能性を感じた。

★北海道では、少子高齢化や人口減少、現在は新型コロナウイルス感染症等、様々な課題に直面しています。北海道が抱える課題を一つ挙げ、あなたが北海道のリーダーとなった場合、どのように解決していくか教えてください。

着目すべき北海道の課題は「人のつながりの薄さ」にあると考える。北海道にはポテンシャルがあって、既に行われている「人をつなげる事業」も多くある。北海道に執着し、愛を注いで人とつながろうと主体的に動く大人たちがいる。しかし、その存在を知っているのは北海道民のごく一部だ。ポテンシャルがあって、人がいて、既に行われているのに、それらが知られていない。この現状を改善するためには、これらの事業を教育に混ぜ込むことが重要であると考えている。幼い頃から「地域の人とのつながり」が結べる空間があって当たり前、という認識をつくることで、地域への愛を認識しやすくする。そのため、もし私が北海道のリーダーとなった場合、民間と教育のコラボレーションを実現したい。

★養成塾に参加したことでできた、将来の夢や今後の目標を教えてください。

参加前と参加後で、私の夢は変わらなかった。しかし、これは逆に「リーダー養成塾並の刺激を受けてもなおしぶとく生き残った、確固たる夢」と言うことができる。私はリーダー養成塾に行って、夢を見つけた

のではなく、「これでいいのだ」と確認することができた。不登校や退学を経験しても、人との関わりを断った過去があっても、どんなどん底からも這い上がることができるという「前例」であり続けること。自分自身の成長と、こんな私と知り合ってくれた愉快的仲間たちを幸せにすること、どれほど些細であろうと素敵な出会いを大切にすること。そして、その背中を世界に発信し続けること。私を見て、「やってみようかな」と能動的に動き出すための、きっかけのきっかけになること。それが私の夢であり、現在進行形で模索中の野望だ。

★保護者の方から

参加されている生徒さんの考え方が種々多様であり、大きな刺激を受けることができたようです。色々なことにチャレンジすることの重要性、あきらめない気持ちが身についたと思います。

★学校の先生から（学校法人札幌慈恵学園 札幌新陽高等学校 佐藤 貫太 先生）

養成塾に参加する前から、自己実現に向けて主体的に努力を重ねている生徒でした。参加してからはより一層、目標が明確になり、モチベーションが高まっている印象をうけました。教職員数十名に対して報告会を行い、リー塾で学んだ経験を堂々とプレゼンしてくれました。素敵な仲間、スタッフ、環境と出会い、様々な刺激をもらったことで、間違いなく成長しています。このような機会を作っていただき、ありがとうございました。

齊藤 りこ さん

(私立札幌聖心女子学院高等学校 3年)

★養成塾に参加して、最も印象に残ったことは何ですか？

今回の研修で1番印象に残っているのは、アジア・ハイスクール・サミットというローカルからグローバルへ世界とつながり地球の未来のために何ができるかを考える授業でした。ここで私たちのクラスが取り扱ったテーマは、ジェンダー平等における男女差別でした。全国から選抜されたメンバーで解決策を考える時間は今までにないくらい貴重で有意義な時間となりました。

★最も感銘を受けた講義について教えてください。

松岡浩司さんです。その時代と流行に応じて、パンケーキを作ったという発想と行動力に感銘を受けました。それと同時に健康にもよく、地域の活性化にもつながるオリジナルな作品を作りたいとお考えになられ見事に成功させられた村岡さんは「幸せな生き方」をなされていると感じました。自分がやりたいこと、社会の未来像が一致したときに幸せだと感じ、それを「幸せな生き方」とおっしゃられていました。確かに社会が自分の望んだ結果になることこそが幸せだからこそ、行動をしてより良い日本に導きたいと思いました。

★アジア各国や全国からの参加者との交流を通して、得たことや感じたことは何ですか？

様々な人と出会い、自分の未熟さや努力不足に気づかされ、努力をさらにしようと言う気持ちになりました。世界の人とコロナ禍で起こっている状況を共有する時間は有意義であり、ニュースでは知ることのできない状態を知ることができたので興味深かったです。

★養成塾で得た知識や経験を、今後どのように活かしていきますか？

私の目標は、周りから尊敬されるようなリーダーとなることです。私は大学でビジネスにおける法律を学び、会社に知識として貢献できるような人材になりたいです。リー塾に参加したことで自分の意見を発信することに抵抗がなくなりました。その経験を生かして、周りを引っ張ることのできるリーダーとなったら、頑張ったら頑張った分だけ報われる世界を作り、それぞれの努力が実を結ぶような平等な未来を作りあげたいです。

★養成塾での講義や、アジア各国、全国からの参加者と交流した中で、あなたが感じた北海道の魅力や価値を教えてください。

九州パンケーキのお話を聞いて、北海道のような地産地消を行いやすい土地も北海道パンケーキのようなものを作り、北海道を活性化させることができるのではないかと思います。

★北海道では、少子高齢化や人口減少、現在は新型コロナウイルス感染症等、様々な課題に直面しています。北海道が抱える課題を一つ挙げ、あなたが北海道のリーダーとなった場合、どのように解決していくか教えてください。

北海道は少子高齢化が多い中、地下が発達しています。そのため、上り下りが大変な高齢者の方々には不便だと思います。だからこそ、バリアフリーにやさしい街造りをしていくことが大切だと思います。

★養成塾に参加したことでできた、将来の夢や今後の目標を教えてください。

私の将来の夢である経営者になるために必要なのは、広い視野でものごとを見ることのできる力や世界が抱える問題を考え解決する力だと思っています。その力を身に着けるために、世界を舞台に活躍する講師の方々から知識を吸収するだけではなく、生き方を学び、同世代の選抜された仲間達と徹底的に議論する貴重な2週間を過ごしてまいりました。参加した同世代の方々は、高校1年生から高校3年生の約140名で、いざ参加してみると一番年上の私が高校1年生の意見に圧倒され、高校2年生の多様な考え方に刺激を受けることも多くありました。今回の研修での宝物は、年齢関係なくお互いの素晴らしい部分を尊重しあえる仲間に出会えたことです。それぞれの人に、私にはない多様な考え方や素晴らしい長所がありました。そのような仲間とのディスカッションを通し、自分の未熟さや努力不足に気づいた私は、さらに成長してその姿を仲間に見せたいという気持ちになりました。

★保護者の方から

応募にあたっての作文や自己アピール表が大変そうでしたが、そのような姿を見ていて本当に行きたいのだろうなという意欲が伝わってきました。その提出物の内容も未来のリーダー像（経営者やリーダー）に必要な客観的に見ることのできる力や自己分析を養う基本的なことから学ぶという観点が普段の学校生活や日常生活では経験することのできない貴重な体験となったと思うので素晴らしいと思いました。

★学校の先生から（私立札幌聖心女子学院高等学校 漆崎 琴 先生）

本校生徒（齊藤りこ）は、リーダー養成塾参加前から積極的に将来を考える生徒でしたが、正式に参加が決まった後はより塾生として自覚を持ち準備に励んでおりました。途中からオンラインに変更になったときは残念そうでしたが、顔を知った仲間たちとの絆は深まっていたようで、限られた環境での学びを十分に

活かそうと努力していました。学校に戻ってからもその経験を進学、将来に活かすべく、ますます貪欲に学習に励んでいます。貴重な機会をいただき、本当にありがとうございました。

平田 彩花 さん

(北海道登別明日中等教育学校 1年)

★養成塾に参加して、最も印象に残ったことは何ですか？

私が参加して良かったと思うことは様々な価値観を知り、視野が広がったこと。また、全国各地に自分の悩みを相談でき、尊敬できる仲間ができたこと。多くの人と関わる中で今まで気づかなかった新しい考えを知り、様々な視点から物事を考えられるようになったと思う。短い期間ではあったが、住んでいる都道府県や年齢の壁を超えたたくさんの人交流することで自分について改めて考えることができ、そして、友達以上の深い絆で結ばれ、お互いを認め合えるような関係を築くことができた。リーダー塾が終わってからもお互いのなやみを相談し合えるかけがいのない存在が新たにできて本当に良かったと思う。

★最も感銘を受けた講義について教えてください。

私が最も感銘を受けた講師は村木厚子さん。自身の冤罪で捕まり、拘留所で生活をされたという経験を元に、当時の考えや立場の弱い人をどのように社会に繋げることができるかなどの当事者だからこそ言えるお話を聞くことが出来た。身近にいる人の大切さ、そして困難に遭遇した時の考え方などとても深く大切なお話をお聞きすることができた。特に印象に残っている言葉は「人は誰でも一夜にして支えられる存在になる。」だ。自分が支える立場だと思っても突然の出来事を境に立場が全く変わってしまう。今できることを探し、諦めないことの大切さを学んだ。また、報道のあり方について容疑者はいかにも悪そうな顔つきの写真ばかりを使用したり、追い詰めるような過剰な内容を報道したり、誇張している部分がある。真実を貫く力というのが必要だと思う。

★アジア各国や全国からの参加者との交流を通して、得たことや感じたことは何ですか？

自分の英語力のなさを実感した。相手に2度繰り返してもらわないと聞き取れないことや質問に対して答えをすぐに言えなかった場面があった。聞く書くだけの勉強だけでなく、実際のコミュニケーションを取れるように話す勉強をもっと重視していきたいと思う。交流の中では各国のコロナがもたらす影響や現状について話し合った。どの国も問題点はとても似ていて、それぞれの国ではなく世界が一丸となって協力する必要があると思った。アジアの方々はフレンドリーでとても話しやすかった。言葉が多少分からなくても、表情や仕草の重要性を感じた。コロナ禍だからこそオンラインでたくさんの人と交流することができ、学ぶことが多いとても貴重な経験になった。

★養成塾で得た知識や経験を、今後どのように活かしていきますか？

普通の学校生活や家庭内ではもちろん、まずは自分の住んでいる地域で課題を考え、今何が必要なのか、何が求められているのかを考え、実際にアクションを起こしていきたいと思った。自分から行動することはとても大事だし、挑戦しないよりも挑戦して失敗した方が学べることは多いと感じたから積極的に様々なことに取り組んでいきたいと思う。また、世界には様々な考え方をを持った人達がいるということをもまなび、そこからひとつの考えに執着せず多くの視点から物事を考え、より多くの方が生きやすい世界にしていきたいと思う。まずはなんでも第一歩を踏むこと悩んでるぐらいならなんでもやってみるということをお大切にしていきたい。

★養成塾での講義や、アジア各国、全国からの参加者と交流した中で、あなたが感じた北海道の魅力や価値を教えてください。

私が様々な考え方交流を通して感じた北海道の魅力は、自然がとても豊かで食べ物がとても美味しいことである。森や動物が身近にいていつでも触れ合える、心を安らげることが出来るのが魅力だと思う。また、山の幸、海の幸にとっても恵まれていて特に旬の季節の食べ物が美味しく、四季を感じやすいと思う。北海道の中でも多くの市町村があり、それぞれに違った良さがあると思う。また修学旅行で北海道を訪れるという高校生も多く、ウィンタースポーツ例えばスキーやスケート、アイスホッケーなどに親しみやすいというのも北海道の魅力のひとつだと思う。

★北海道では、少子高齢化や人口減少、現在は新型コロナウイルス感染症等、様々な課題に直面しています。北海道が抱える課題を一つ挙げ、あなたが北海道のリーダーとなった場合、どのように解決していくか教えてください。

私は人口減少について、北海道の各市町村の魅力をもっと多くの人に知ってもらう必要があると思います。例えば登別は温泉で有名だが九州に行くと登別という地名ですら知らない人がほとんどだった。北海道内だけでなく日本全国、そして世界のより多くの人に北海道のそれぞれの地域の良さについて実際に見たり触れたりする体感することで知ってもらう必要があると思う。また、車の所持率も高く、食材や日用品をもっと買いやすいよう高齢者の買い物のサポートや出産祝い金など資金面や日常生活の支援もより必要になってくると思う。コロナ禍にできることは SNS が若者にも魅力を知ってもらうひとつの手段になると思う。

★養成塾に参加したことでできた、将来の夢や今後の目標を教えてください。

将来は世界で貧困の方や難民の方々を教育の面で支援できる人になりたいと思う。リーダー塾に参加して自分の環境がどんなに恵まれているか、自分がどれだけ周りの人達に支えられて生きているかを強く実

感じた。世界には教育を受けたいのに受けられない環境にいる人というのは少なくない。中には子供でありながら重労働をしたり、銃をもって戦ったり、日本では考えられない状況下の子供たちもいる。教育はただ学問を教えるだけでなく、心理的な面での支援も含まれる。相手の気持ちを考えながら、まずは自分を支えてくれている人に感謝の気持ちを持ち、今こうして幸せを感じられるのはあたりまえのことではないということを実感しながら広い視野で物事を考えることができるようにしていきたい。

★保護者の方から

今回、養成塾に娘が参加して正直目に見える形で何がどう変わるかということはそれほど期待していませんでした。しかし、養成塾のプログラムを終え、帰宅した娘の顔を見ると達成感と充実感に満ち溢れている表情を見て参加させて本当に良かったと感じました。特に日本全国に志を持った仲間が出来たことは、娘にとって一生の財産になったことだと思います。その仲間とは、それぞれ帰郷後も繋がっており、相談事や何かしらのプログラムを立ち上げるなどお互い切磋琢磨しているようです。

★学校の先生から（北海道登別明日中等教育学校 林 大輔 先生）

成果発表資料にあった「課題の発見→原因の追究→解決策」という課題解決の考え方を学んだこと、「自分の視野の狭さ」に気づけたことは大きな収穫でした。コロナ禍での「情報共有の難しさ」を実感し、「多くの人の支えによって毎日が成り立っていることへの感謝」の気持ちを自ら認識できたことは成長だと思います。

興味関心の幅が広がり、さまざまなことに挑戦することを決めたようで、早速生徒会役員選挙に副会長として立候補し、当選することができました。サステナブルな視点で文化祭や学校生活を生徒一人一人の力を合わせて創っていきたいようです。これからは非常に楽しみです。

貴重な機会をありがとうございました。

窪田 初音 さん

(私立北星学園女子高等学校 3年)

★養成塾に参加して、最も印象に残ったことは何ですか？

リーダー塾を通して全てのことを自分の成長につなげることができたと思います。たくさんありすぎて一つに絞ることは難しいですが、一番印象に残っているのはリーダー塾の2週間を通して出会った高校生・大学生や大人たちです。政治家になろうとしていたり、アメリカの名門大学を卒業することを目指していたりする人もいて、日本の高校生ってすごいなと思いました。また、自分もこの人たちと一緒に世界をよくしていきたいと思うようになりました。卒塾生発表などでこんな考え方を取り入れたいと思う人にたくさん出会うことができ本当に嬉しいです。

★最も感銘を受けた講義について教えてください。

村木厚子先生のご講義が強く印象に残っています。

村木先生は初めて会った大人の中で一番尊敬する人になりました。郵便不正事件の話をするときに一切相手に嫌な感情を出さずに説明をしているところが凄いと思ったし、村木先生のご講義を聴いていて村木先生のような素敵な人になるにはどうしたら良いかが少しだけわかった気がしました。困難にあい、辛いことを経験してもそこから村木先生のように学びを得られるなら、今まで経験してきた自分の苦勞はそんなに大したことではないと思えました。

★アジア各国や全国からの参加者との交流を通して、得たことや感じたことは何ですか？

みんなまだ十数年しか生きていないのに、すでにバックグラウンドがみんな違うと感じました。アメリカに5年間住んでいた人や、自分の島から出たことがなかった人、日本には中学生の時に来た人などたくさんの人と出会って、リー塾が終わった後に知らない人を見る時に、その人のバックグラウンドを想像し、偏見の気持ちを持たずにどうしてそう考えるのかを想像する力がついたと感じます。バックグラウンドの違いが豊富なぶんだけ自分の発言への配慮の度合いも増すので、一度に色々なことを考え、でも自分の意思を明確にするということができるようになりました。

★養成塾で得た知識や経験を、今後どのように活かしていきますか？

リーダー塾が終わってからすでに、新聞を読む時にリーダー塾で得た新しい視点を自然に取り入れてい

ることに気がつきました。難しい局面にあたったときに、講義の先生方が教えてくださったことを生かして自分なりに解決していけたらいいと思います。歴史を学び今を知ることがとても大切だと感じたので、日本だけでなく世界はどういう風に今の形になっていったのかをもっと勉強してみようと思います。

★養成塾での講義や、アジア各国、全国からの参加者と交流した中で、あなたが感じた北海道の魅力や価値を教えてください。

北海道の自然は人の心を穏やかにしたり癒してくれたりするんだと思った。他の都府県の人たちよりは競争意識が低いことは事実かもしれないけれど、個人的には、困難にあった時に自然の中に入って行って自分を癒すことが道民は得意だと感じた。

★北海道では、少子高齢化や人口減少、現在は新型コロナウイルス感染症等、様々な課題に直面しています。北海道が抱える課題を一つ挙げ、あなたが北海道のリーダーとなった場合、どのように解決していくか教えてください。

コロナの感染症対策が問題だと思います。道民の自粛の我慢に限界がきているように見えます。さらに、以前ほど知事の声が道民に届いていないように感じます。強い措置を出しても道民の行動意識はあまり変わっていないと思えません。もし私がリーダーになったら、情報を発信するメディアに向けてイベントなどの宣伝を控えるよう呼びかけます。まん延防止対策期間中なのに JR タワーでのイベントなどの宣伝をしているのをニュースで見て、こんなものを見たら行きたくなっちゃうよな、とっていました。不要不急の外出を控えるということを徹底するために、その外出を誘発するようなメディアの発信を気かけたいです。

★養成塾に参加したことでできた、将来の夢や今後の目標を教えてください。

リーダー塾に参加する前からあった目標である、アメリカの大学に進学し自然保護を学ぶという目標がより強いものになった。加えて、リベラルアーツの重要性を感じたので少し進路を変更する決断をする勇気を得られた。これからは自分に関係があったり関心がある自然に関する問題はもちろん、様々な社会問題に目を向けてその問題に関わる色々な立場の人たちのことを想像し、少しでも解決に近づけられる努力をしていくことが目標になった。4組の人たちと一緒に立ち上げた、日本の教育格差を埋めるためにできることをする学生団体を通して北海道で色々な事情で思い通りの勉強ができない人たちをサポートしていきたいと思う。

★保護者の方から

このような状況の中、現地開催してくださった事に感謝します。残念ながら途中で zoom に変更になりましたが、本人が真剣にそして楽しみながら参加する姿を親としては嬉しく見守っていました。親元を離れ

て3年、自分の意見を堂々と伝え、メンバーの話をしっかり聴き様々な意見を聞き入れる、ずいぶん視野が広がったと感じました。ありがとうございました。

★学校の先生から（私立北星学園女子高等学校 吉田 努 先生）

参加前は、自分の殻をなかなか破れない生徒であった。予定していたアメリカ長期留学が中止となり、自分を成長させたいと願い続けてはいたが、そのきっかけをなかなか掴めずにいた。そんな中、養成塾への参加を決めた。私は、様々な人たちとの出会いが彼女を成長させてくれると確信していた。その期待通り、彼女は自分がこの世界とどのように関わることができるのかを見極めたいとの思いを強くして帰ってきた。この出会いを大切に、目標であるアメリカ大学への進学を果たし大きく成長する姿を今から楽しみにしている。

松岡 真梨子 さん

(私立北星学園女子高等学校 3年)

★養成塾に参加して、最も印象に残ったことは何ですか？

印象に残ったことは、高校生の自らの過去の経験と講義の内容を関連付けて考え、またそこから疑問を広げる姿勢です。講義に参加する前までは、共に参加した高校生の皆さんは一見ごく普通の女子・男子高校生でした。しかし、講義が始まると、彼らは講師の方々に鋭い質問を投げかけ、講義は質問の嵐でした。講義の中だけでなく、ディスカッションや合宿場でも彼らの学びへの好奇心は強く、自分以外の参加者は全員私にとって先生でした。与えられた情報や知識を鵜呑みにしてしまうのではなく、まず疑ってみることで新しい視点や発見が得られることを学びました。そうすることで、学ぶことがより楽しくなり、なぜ学ぶのかを見つけ出せると私は考えることができました。

★最も感銘を受けた講義について教えてください。

私が最も感銘を受けた講義は、マハティール・モハマドさんの講義です。マハティールさんの講義を受けて平和への考えを深めることができ、世界が豊かになれば世界に平和をもたらすことができるなどの平和をつくるカギを見つけることができました。そこから自国に対する愛国心を持つことと同じく、地球に「愛国心」を持つことが重要だとも学びました。講義中の、『共通の敵には共通の戦略を』という言葉が印象に残り、世界が一つになりきれしていないから、このコロナとの戦いも終わっていないのだと感じました。そのため、一つになるために国際交流が必要なのだと思います。また、他国の人と対話することでお互いを知り、先入観を取り除き、尊重し合う事ができるのだと考えることができ、大きな学びを得られました。

★アジア各国や全国からの参加者との交流を通して、得たことや感じたことは何ですか？

参加者と交流を通して、物事を批判的に見ることの大切さを学びました。講義の中だけでなく、ディスカッションや合宿場でも彼らの学びへの好奇心は強く、自分以外の参加者は全員私にとって先生でした。多くの塾生そして講師の方々の考えや意見を聞き、新しい考え方に触れることができました。アジア各国からの参加者との交流では、小グループの進行を勤めさせていただいたのですが、自らの英語力の低さを痛感しました。当たり前ですが、英語という世界共通語が話せなければ、世界各国の方々と意思疎通することも、会話をすることもできません。世界に出て学ぶために、英語というツールを使いこなせることを

当たり前にしなければならないと感じました。

★養成塾で得た知識や経験を、今後どのように活かしていきますか？

今後はできることから始めて、取り組み、活かします。例えば、ゴミ問題を改善するために地域の高校生を集めてゴミ拾い活動をしたり、海や海岸に落ちているプラスチックやペットボトルを拾いアート作品にして展示したり、リサイクルに回したりなど、積極的に活動していきたいです。そして、使わなくなった鉛筆、消しゴムや教科書などを集めて発展途上国に届けることは可能かなど、リーダー塾に共に参加した札幌の仲間がいるので、出会いを大切に、一緒に地域に貢献してゆきます。また、普段活動しているなまら食堂でもリーダー塾で学んだ事を広め、志の高い仲間と何ができるか共に考え、地域のためや日本、世界のために何ができるか話し合い、次世代を担う若者として責任を持ち活動して活かしていきます。

★養成塾での講義や、アジア各国、全国からの参加者と交流した中で、あなたが感じた北海道の魅力や価値を教えてください。

私が考える北海道の魅力は食べ物です。参加者の方々と北海道の話になった際、口を揃えて仰ったことがあります。それは「北海道の食べ物は新鮮で美味しい」です。陸で育てられた作物や海で獲られた魚などが美味しいと言ってくださり、特に北海道の海鮮丼を食べたいと言ってくださる参加者の方々が多くいらっしゃいました。人々を笑顔にすることができる北海道の食べ物は大きな魅力です。また、川や森、海や動物など自然豊かなところも魅力だと感じます。全ての生き物が共存し、自然生態系を維持している環境をこれからも維持し、課題や問題点を解決していけるような北海道にしてゆきたいです。

★北海道では、少子高齢化や人口減少、現在は新型コロナウイルス感染症等、様々な課題に直面しています。北海道が抱える課題を一つ挙げ、あなたが北海道のリーダーとなった場合、どのように解決していくか教えてください。

北海道の課題の一つとして選挙における若年層の投票率が低いことが挙げられます。衆議院議員選挙（2017年）における10代投票率が北海道は45.97%と、全国で4番目に高い数字でした。しかし、この45.97%という数字は半分も満たしていない状況であり、高くないと考えます。私がもし北海道のリーダーとなった際は、自分一人の投票で世の中は変わらないという考えを改めてもらうために、学校や若い人が集まる場所で地域や国を引っ張っていくリーダーらを決めることの重要性を伝えます。また、投票してくださった方にプレゼントやギフトを送るなど工夫をしていきます。

★養成塾に参加したことでできた、将来の夢や今後の目標を教えてください。

私は養成塾に参加して、世界平和に向き合う際に不可欠である英語を教えながら平和の教育ができる英語教師という夢をより深めることができました。養成塾の講義の中や、今まで読んだ本から平和な日常が当たり前ではないことを学びました。また、それらの経験から「平和」とは何かを考えることも多くなりました。1人の地球人としてどのように世界平和に貢献できるか考えた際に、まずは平和について専門的に学ぶべきだと確信しました。教師の立場として、平和について傍観者となっている自分を含めた若者を変えることによって、世界平和に貢献したいです。この夢を叶えるために、さらなる英語力の向上を目指しながら、同時に平和について学んでいきます。高校卒業後は平和研究の先端をいく大学で専門的に平和について学ぼうと考えております。

★保護者の方から

養成塾への参加をとっても楽しみに出かけていきました。途中で帰省することになり、不安もあった様子でしたが、リモートでの講義も熱心に受講していました。たくさんの人に出会ったこと、今まで考えたり想像をしたこともない環境での自分のあり方を探ることになったと思いますが、どれも貴重な体験をしたことと思います。コロナ禍で人が集まるのが難しい中でたくさんの人とコミュニケーションを取ることが出来たことも感謝しています。

★学校の先生から（私立北星学園女子高等学校 吉田 努 先生）

養成塾への参加は、参加生徒を一段高い視野に立たせていただけました。新型コロナウイルスの世界的流行のため、本校の生徒が人生の大きな目標としていた留学が中止となり、世界を自分の目で見て体験したいとの希望は叶わぬ夢となりました。そのような生徒にとって、今回の養成塾は、自分の身の周りだけの世界に生きていては決して出会うことがなかった貴重な出会いを与えてくれました。彼女は、これからの人生で自分がどのような貢献ができるかを深く考え、今後行動してくれるだろうと確信しています。

山本 理子 さん

(私立北星学園女子高等学校 3年)

★養成塾に参加して、最も印象に残ったことは何ですか？

大好きな仲間たちができたことです。視野が広く、感謝とごめんなさいをきちんとと言う生徒たちに出会えました。学校では聞くことの出来ないような考えに触れ、自分の考え方を見つめ直すことができました。途中、前例のない事態が起き、一部のクラスメイトと離れてしまうことがありました。その時でさえも、悲しくてずっとみんなのことを考えていましたが、他のクラスメイトも同じみたいでした。みんなとはこれからも太く長く繋がっていくのだと思います。何かあった時、つまづいた時に支え合える存在です。

★最も感銘を受けた講義について教えてください。

1 つ目は、鎌田實先生のご講義です。物事を俯瞰しつつ、相手のことはその人の目線から考えていらっしゃる先生の姿勢に感動しました。国際貢献をするにあたって、義務とさえ感じない謙虚さ、恩送りの考え方を知り、今まで自分が考えたことのなかった視点が生まれたと思います。敵のために働くとはどのようなことなのか、今後の学びが増えました。

2 つ目は、田口一成先生のご講義です。まず、社会問題とビジネスが対極にあり、社会問題を解決したいためにビジネスをすることが難しいと考えていた私にとって、目の覚めるようなご講義でした。先生の会社で働きたいと思い、進路の具体的な選択が増えました。

★アジア各国や全国からの参加者との交流を通して、得たことや感じたことは何ですか？

みんな行動することを前提として考えを深めていることです。今まで、私や高校の友達の間では、ある問題に対してなにかしたいけれど、大きな問題すぎて難しい、どうしようもない、と終わらせてしまうことが多くありました。しかし、全国の高校生と出会い、みんなはその大きな問題を小さく分けていて、その中で自分が出来ることや地域で始められることを行っていると感じました。アジアの学生は、自信を持って英語を使う姿が魅力的でした。お互い第二言語として英語で話すこと、ただでさえ異国で生活をするということで大変だと思うけれど、それを感じさせない信念や、目標への努力が良い刺激になりました。

★養成塾で得た知識や経験を、今後どのように活かしていきますか？

クラスのメンバーと団体を立ち上げました。そこでは、同じ世代を中心に自分たちの考えや知識を広めていけたらと思っています。日本は、投票率が先進国の中で低く、特に10代20代の投票率が最低です。政治はそれぞれの人生に直結していること、政治参加のありがたみを広めていきたいです。また、他の生徒のように、学校で積極的に社会問題に触れていこうと思います。なにかの問題について深く知られていない学校のような場所というのは、相手は知らないことを知り、私は新たな考えを得られる貴重な場だと気づくことが出来ました。

★養成塾での講義や、アジア各国、全国からの参加者と交流した中で、あなたが感じた北海道の魅力や価値を教えてください。

今回、他の地域を知ることで、どちらかといえば北海道の問題をより知ることになりましたが、現職の鈴木直道知事の柔軟な考え方はこれからの北海道にとって良いものになるのだと思います。年齢関係なく、より良い考えだと思って鈴木知事を支持している北海道を誇りに思います。また、面積の広さは大きなアドバンテージです。農業、商工業に加え、広い面積を必要とする再生可能エネルギーの発電に使えるのではないかと思います。現在日本では、火力、原子力発電という、それぞれ環境や土地、住民に害を与えうる発電方法に頼っていますが、北海道はそんな窮地を乗り切る能力を秘めていると思います。

★北海道では、少子高齢化や人口減少、現在は新型コロナウイルス感染症等、様々な課題に直面しています。北海道が抱える課題を一つ挙げ、あなたが北海道のリーダーとなった場合、どのように解決していくか教えてください。

都市部への人口集中は、北海道が抱える早期に取り組むべき大きな問題のひとつだと思います。今回リーダー塾で、佐賀県の山口祥義知事にお話を聞く機会がありました。知事は、現場の一人一人を大切に、現場から問題解決をされる方です。私が北海道のリーダーなら、過疎地域に実際に足を運び、その地域のどのような部分を活かせるのか、地域から発信していくことは何か考えたいのです。今は、SNSを使ってどこにいても世界と繋がることができます。そのような新しい手段を上手く用いて、人のいない場所や、空き家の活用、地域再生に尽力したいです。佐賀は、人が全く居ない山がないそうです。北海道も、同じように、地域再生の素晴らしい例になり得ると思っています。

★養成塾に参加したことでできた、将来の夢や今後の目標を教えてください。

国際的な社会問題に関わってみたいと改めて思っています。内側を知るには外側を知ることから始める必要があります。北海道、日本を、自分自身をより知っていくためにも、やはり海外大学進学への

思いが強まりました。そして、諦めかけていましたが、いまは国連で働くことが夢です。ボランティアは、問題を直接解決することにはなりません、知り、関わっていくには必要なことです。たくさんの国へ行き、現場を知り、相手を知り、共に過ごすという経験を重ねたいです。仕事も社会問題の解決に関われることが良く、考えている途中だったので、今回田口一成さんのお話を聞いたことは本当に感謝しています。国連職員になる前の実務は、ボーダーレスジャパンで経験したいと思っています。

★保護者の方から

2 週間全国の高校生と共同生活を送るということで、少々不安でしたが、帰ってきた時に塾の感想や新しく出来た夢について笑顔で話す姿が印象的でした。参加前は人見知りな部分もありましたが、塾では仲の良い友達ができ、塾終了後もクラスメイト達と Zoomなどで交流を続けているようです。

★学校の先生から（私立北星学園女子高等学校 吉田 努 先生）

参加前は、自分に何が出来るのかを探りながら生きていたように思う。素直に表現することが、時に面倒になってしまったり、恥ずかしくなったりしていた。今回の養成塾を通して、彼女は大きく成長した。視野が広がり、学ぶ意欲が大きく高まった。海外大学への進学を目標とし、世界を自分の目で見て、自分を大きく成長させたいとの希望をさらに強く持つようになった。養成塾で学び感じたことをこれからも大切に、主体的に様々な体験をこれからも積んでいくことを期待している。